

事業名

美濃加茂市 小山健寿会 特別講座

主催

美濃加茂市 小山健寿会

特定医療法人清仁会 のぞみの丘ホスピタル/サントピアみのかも

日時

令和 8年 2月 11日(水)

10:00~11:30

場所

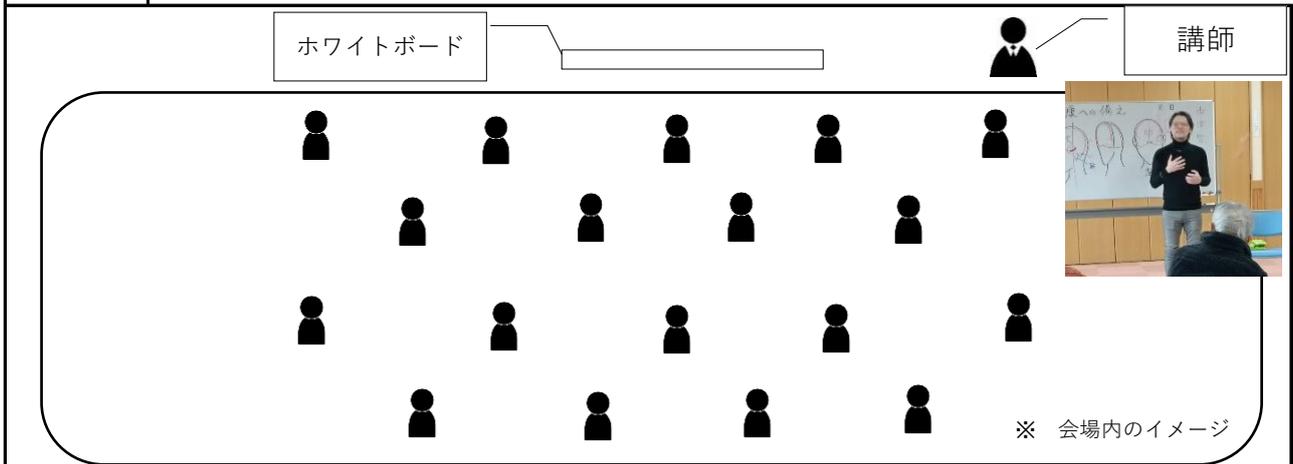
美濃加茂市 小山会館



講師

のぞみの丘ホスピタル 理学療法士 中津智広

活動報告



< 講演会について >

この講座は美濃加茂市の健寿会さんからの依頼で実施することになりました。

美濃加茂市内で活動されている団体の参加者さんに「フレイル予防」「認知症予防」というキーワードを発信し、より健康意識を高めて頂きたいという想いで具現化したものです。

事業をサポートさせて頂く当法人としては、講師より**健康維持そしてフレイルや認知症を予防するための対策**として、**概論を正しく知ること、そして交流の場や運動継続の重要性**を実践を交えつつ啓発しております。

< 当日の配布資料について >

当日配布されております配布資料の一部  
(右写真)

< 基本的な感染対策について >

会場の定員数はソーシャルディスタンスが保てる座席配置を考慮して設定しておりました。

また参加時のマスク着用徹底、受付での検温や問診なども実施しています。

換気を行いつつ3密を避けた会場でした。

参加者 20 名 (含む 運営スタッフ)

講座当日の様子



会場は「美濃加茂市 小山会館」で開催されておりました。  
朝早くにも関わらず、大勢の方が集まっておられ、非常に賑やかな雰囲気でした。



我々、清仁会取材班も講座の隙を見つけて撮影をさせて頂きました。



絆 R8年 2月 No52

小山第1・第2健寿会



選挙は終わったけれど・・・

自分の子どもや孫や曾孫が親を持つて人を殺傷したり、殺されることがないように考えて考えて投票をしてきたつもりです。今から80年前、私が生まれた年でもありますが、2度と悲惨なことが繰り返されないようにと反省され、平和憲法が生み出されました。これからも「平和と暮らしを守ろう」と声を大にして訴え続けていきたいと思ひます。

日露戦争開戦の明治37年9月与謝野晶子は、次の詩を発表  
ああおとよ君を泣く 親は刃にぎらせて  
君死にたまふことなかれ 人を殺せとおしえしや  
末に生まれし君なれば 人を殺して死ねよとて  
親のなさはまさりしも 二十四までをそだてしや

難聴は認知症の最大のリスク

先日娘が「耳の聞こえが悪いと認知症も進むそうよ。子どもとしてそんな嫌だから・・・。おかあさん補聴器を使ってみる気がない?」と言われた。10年前に必要に迫られて耳穴にすっぽり入って電池で操作するのを購入し使用したことがあった。しかし毎日電池交換をしなければならなかったし、必要以外の雑音を拾って聞こえることにならなくなりおしさを感じていた。ちょうど電池交換のときに先端が折れてしまったことを良いことに買い替えることもなかった。しかし娘が言うように人と人の対話が思わしくなく集団の中にはあまり行きたくない家で本を読んだり、大音量でテレビを見ていることを良しとしていた。こうして認知が進んでいくんだろなと寂しさも感じていた。しかし新しい補聴器で耳の聞こえが良くなって生活に張りもでき、皆のために夕飯の支度をしておこうかと進んで取り組めるようになった。

住み慣れた美濃加茂市で、いつまでも生活して頂きたい！そのためには健康に留意していかなければなりません。フレイルや認知症というキーワードを正しく届け、対策を！！